

【サル痘(Monkeypox)qPCR 検出用プライマープローブ合成のご案内】

下記論文に基づいたサル痘(Monkeypox)検出用プライマープローブをご提供します。論文内の検討において、3つのアッセイのうち西アフリカクレードのアッセイは通常のアニーリング/伸長温度では特異性が不十分な状況がありました。そのため、弊社において Hypercool Primer & Probe 法によりプローブ長を短かくし特異性を上げる改良を行っております。

<論文情報>

“Y. Li et al. / Journal of Virological Methods 169 (2010) 223–227
Real-time PCR assays for the specific detection of monkeypox virus
West African and Congo Basin strain DNA”

<アッセイの構成>

「西アフリカ特異的」「コンゴ盆地株特異的」、および「Monkeypox 汎用」の3つの加水分解プローブ法によるリアルタイム PCR アッセイから構成されていて、コンゴ盆地と西アフリカのサル痘株を区別する性能を有すると報告されています。

<現時点での検出株に対して>

弊社において、2022年5月に検出された米国「USA_2022_MA001 株」、およびポルトガルの「PT0001_2022 株」(いずれも西アフリカ産)のゲノム配列を入手し、この論文のプライマー・プローブがそれらの株の検出を可能とする配列であることを確認いたしました。(配列上の確認です。)今後の2022年のウイルス株にも対応できる可能性があると考えられます。

お問い合わせ先

株式会社日本遺伝子研究所 合成事業部

TEL:022-388-9748 (直通) FAX:022-388-9740 まで

E-mail:oligo@ngri.co.jp